

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	福島区
学校名	大阪市立吉野小学校
学校長名	豊岡 真実

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・吉野小学校では、第6学年57名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語、算数、理科の全ての教科で、平均正答率が、全国平均及び大阪府平均を上回った。国語では、全国と比較して平均正答率が1.2ポイント上回った。特に、知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では全国平均を10.8ポイント上回っている。算数では、全国と比較して平均正答率が7.0ポイント上回った。全ての領域で全国平均を上回っているが、特に「数と計算」「測定」「変化と関係」領域で約7ポイント高かった。理科では、全国と比較して平均正答率が0.9ポイント高かった。全ての教科の正答数分布グラフに凸凹があり、正答数にばらつきがあることを示している。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

[国語] 正答率が全国平均を上回ったのは、昨年度までの2年間、国語科の「読むこと」を中心に授業研究を進めてきた成果と考える。しかし、「我が国の言語文化に関する事項」で全国平均を7.5ポイント、「書くこと」で1.1ポイント下回っており、言語文化や書くことが課題である。

[算数] 全国平均を7.0ポイント上回ったのは、3年生以上で、ブロック学力推進事業を活用したサポーター・支援員を活用し、習熟度別少人数授業等、個に応じた授業を開発し、きめ細やかに指導を継続してきた成果と考える。しかし、正答率の分布に見られるように、一定の学力をもつ集団が乏しく、個々の学力差が激しいと考えられる。

[理科] 理科専科教員が教材研究、授業準備を行い丁寧な授業を行ってきた結果、平均正答率が全国平均を上回ったと考える。しかし、算数同様、正答率の分布から、一定の学力をもつ集団が乏しく、個々の学力差が激しいと考えられる。

### 質問調査より

最も肯定的に回答する児童の割合を全国平均と比較すると、「自分には良いところがある」で10.8ポイント、「先生は褒めてくれる」で18.9ポイント、「困っているときは進んで助ける」で21.8ポイント、「学校に行くのが楽しい」で17.8ポイント上回っている。日頃から、学校、保護者、地域が一体となって、学校教育目標である「進んで学ぶ子、助け合う子、たくましい子」の育成に向けて取り組んでいる成果であり、この心の醸成が学びに向かう態度に直結していると考えている。しかし、「ICTを昨年度まで授業での程度活用していたか」に対して、「ほぼ毎日」と回答した児童の割合が、全国平均が46.7ポイントであるのに対し12.9ポイントであるなど、課題が明らかになった。

## 今後の取組(アクションプラン)

本年度、本校では、「個別最適な学びと協働的な学び」をテーマに算数科を中心に授業研究をしている。本調査でも明らかになった個別の学力差という課題に対応するためにも、指導の個別化、学習の個性化、協働的な学びを重視した授業展開をめざす。また、習熟度別少人数授業も、個々によりきめ細かく対応するという点では、個別最適な授業と方向性は等しい。習熟度別少人数で編成された集団での授業も効果的に取り入れつつ、より個に応じた学習の在り方を探っていく。個別最適な学びにはICTの活用が有効である。研究の深まりとともに、一人一台端末を文房具の一つとして活用する授業が日常的に見られるようにしたい。

併せて、吉野小学校で伝統的に引き継がれてきた、子どもの「よさ」を、今後も、保護者とともに、しっかりと育てていきたい。